

ももたろう基金【第6次助成】事業実施報告書

実施事業	真備エリアのニーズにもとづき、地域再生によりそう科学的で安心できる場を提供する 災害支援・復興活動プロジェクト 『香りとタッチの癒しのサロン』の実施
実施者名	日本アロマセラピー学会中四国支部平成30年7月豪雨災害支援実行委員会 代表 川合静代
助成金額	200,000 円
受益者数	直接受益者 約 677 名（間接受益者 約 100 名）

※イベント実施や複数回実施事業は別紙で各回の人数等、対象者数のわかる資料を添付ください。

実施した事業の内容・成果

<実施内容>

被災地支援諸団体と地域の再生をめざすグループとの医療社会連携を行いながら、平成30年9月2日より月一回のペースで、医療健康相談、アロマセラピー（ハンドマッサージ）とアロマクラフトの配布、アロマクラフト制作ワークショップ、ハーブティーを提供するサロン活動を中心に継続（助成期間H30/11/1～H31/3/31）。令和元年8月末まで計14回（助成金支給後10回）実施。また倉敷ボランティアセンター（以下略ボラセン）での活動では、ボランティアや、センター職員など、支援者の支援も実施。現在、『川辺復興プロジェクトあるく（以下略 あるく）』にてサロンの開催、『小規模多機能施設ブドウの家真備』に通所している高齢者、及び施設スタッフの支援を中心に活動を継続中。7月には、『真備クリーン作戦inふれあい広場』の協力団体として、怪我・病気予防の応急処置と休憩ができるサロンを展開した。

回	開催日		スタッフ	参加者数	アロマ施術数	活動内容	場所
5	2018/11月	17日(土)	10名	100	30	施術、サロン	ボラセン
6	2018/12月	15日(土)	3名	100	20	施術、サロン	ボラセン、あるく
7	2019/1月	19日(土)	4名	77	25	施術、サロン	ボラセン、あるく
8	2019/2月	9日(土)	6名	60	24	施術、サロン	ボラセン、あるく
9	2019/3月	16日(土)	9名	60	30	施術、サロン	ボラセン、あるく
10	2019/4月	20日(土)	5名	20	20	施術、サロン	あるく、ブドウの家
11	2019/5月	25日(土)	3名	20	18	施術、サロン	あるく、ブドウの家
12	2019/6月	26日(土)	3名	20	18	施術、サロン	あるく、ブドウの家
13	2019/7月	27日(土)	2名	200	10	傷病予防ブース 施術、サロン	高梁川河川敷のふれあい広場、ブドウの家
14	2019/8月	17日(土)	1名	20	7	施術、サロン	あるく、ブドウの家
	合計	10回	45名	677	202		4か所

<成果>

医療関係者・社会福祉士の科学的視点からも、災害復興回復期のニーズに合った支援を提供できている。極力同じメンバーで、顔の見える活動を継続し、老若男女問わずサロン開催時は定期的に通ってくる方がいる。この事からもわかるように、被災者に対して安心できる場として定着してきた。また、学会・各種セミナーにおいて真備の現状を情報発信できている。

活動の様子(写真などを添付してください)



ボラセンのハンドマッサージの様子



『川辺復興プロジェクトあるく』のサロンの様子



アロマスプレーのワークショップの様子



サロンに来る子供たちの様子



お茶をしながら健康相談と血圧チェック



力仕事後の男性もハンドマッサージ
冷えた体に温かい飲み物を

決算報告 (※原則として領収書の写しを添付いただきます。)

今回実施した事業の決算内容は下記の通りです。

費目		金額 (円)
収入の部	ももたろう基金助成金	200,000
	自己資金	14,203
収入合計		214,203

費目	算出根拠	金額 (円)
①当プログラム助成金 対象費目 当プログラム助成金（このプログラムで集めた寄付金）を充てる費目	アロマケア用品費	44,580
	アロマクラフト関連費	58,573
	サロン飲食費	31,660
	サロン消耗品・器具費	13,868
	通信・送料等	6,002
	印刷・事務消耗品費	11,764
	医療健康器具	19,526
	雑費	10,000
	その他	18,230
	小計	
②その他費目 当プログラム助成金（このプログラムで集めた寄付金）を充てない費目		
	小計	
支出合計		214,203

寄付者へのメッセージ

私たちは、以下の3項目をひきつづき重視し活動します。

1) 被災者、被災地のニーズを第一に、2) 地域の再生に繋がる支援内容を、3) 科学的で安心できる場を提供します。そして極力同じメンバーで、顔の見える活動として、継続的に2019年7月まで提供する予定です。支援活動資金を寄贈して下さることで、地域コミュニティの再建に必要な長期の活動が提供することが出来ています。心より、御礼申し上げます。

今後の活動

2020年7月まで、継続的に支援を行う予定です。支援活動の内容はそれまで同様、月一回程度の支援を継続します。

被災者さまの情報発信が少しずつ実施されるようになりましたが、まだまだ不十分。日本各地の天災が起こったことで、真備の復興に関心が失われてしまわないよう、この活動を通して情報発信していく。その、第一歩として2019年11月には、当学会総会において、ディスカッションという形で、全国の学会員に周知する機会を得られている。